



エコアコルウッドの注入釜

まずは、加圧注入し養生・加熱（同社社員が立ち会い、エコアコル硬化処理）で、産地、写真、スプレーによるルウッド流通履歴等の要望がある印字などを徹底。協力（低分子フ）の場合に、地元（八女）業者には分別管理にもエノール系（市・郡産材（主に杉））対応してもらおう。

保存剤・エで対応する。山林の伐採許可確認から、伐採注入処理（エコアコル）を現場、製材工場などに（ル）を行い出荷する。

一般消費者からの商品に対する産地、流通履歴等（トレーサビリティ）への関心がかつてないほど高まり、もし一部でも偽装などが起これば、業界全体の信頼が損なわれかねない情勢にある。九州木材工業（福岡県筑後市、角博社長）では、独自開発の保存処理木材「エコアコルウッド」で、同要望に対応するための流通体制を一年がかりで整えた。昨年、同製品は設計士等との連携などを中心として、年々、販売量が増加している。より消費者に近い部分での取引が増えるなか、「産地を表示するからにはいい加減なことではできない。当社の姿勢としても、この取り組みを進めていく」（角社長）としている。

八女材製品の流通体制構築

九州木材工業がエコアコルウッドで

産地、流通履歴等の徹底へ

その分、製品価格は割高となるが、林家、協力業者にも仕分け手問等を考慮して通常よりも高値で購入する。

「八女（市・郡）産材として販売するうえで、絶対に間違いないものをお客様に届ける」（角社長）。

一方、同社は以前から米杉（ウエスタンレッドシダー）、SPF、米ツガ、南洋材、オーストラリア産材など、この部分に關しても全量、取引先からの合法証明書（違法伐採ではない）の添付を徹底。昨年12月に全木連が東京で開催した合法木材等推進セミナーで、違法伐採総合対策推進協議会会長表彰も受けた。「とにかくお客様

のために、できる限りのことを徹底していく」（同）考えだ。